



専務取締役 荒井 啓治氏

株式会社アトラス
<http://atorasu.jp.net/>
 所在地：勝山市栄町3丁目4-12
 電話番号：0779-87-6886
 代表者：荒井 孝氏
 従業員数：4名
 事業内容：衣料用繊維品の販売



「ケージの力で、ギフトとしても贈っていたただける商品に仕上がったと感しています」。この6月中には、いよいよ新たなパッケージでの販売を開始する予定の同社。冬用を開発を始めている二重靴下のパッケージについても三木氏に相談を持ち掛けています。早くも次なる展開も見せているようです。

「販路づくり」

デザイナーのアドバイスで
既存商品をブラッシュアップ

株式会社アトラス

勝山市で衣料用繊維製品の販売を主軸に事業を行う株式会社アトラス。中でも特徴的なのは、和紙の糸を使ったニット生地の取り扱いです。快適性と機能性に優れた生地の特徴を活かし、以前から販売を続けている靴下「越乃和紙」は同社の看板商品とも言える存在。そんな靴下の販路拡大に向けて、ふくい産業支援センターの事業を利用した経緯を専務取締役の荒井啓治氏にお聞きしました。

県事業への応募で
課題解決の道筋を作る

同社の打ち出す、和紙からできた糸を使った靴下は全国的にも珍しく、オリジナリティの高い商品。吸湿速乾性や抗菌防臭性などにも優れた機能性が評価され、県内百貨店の取り扱いも始まっているなど、品質の高さは折り紙付きです。しかし、当初から、価格に対してパッケージの質がいまいちと感じていた荒井氏。「ビニール製の袋にシールを貼っただけのもので、百貨店担当者からも『物は良いのに、パッケージの高級感がちよっと』と言われていました。そんな折、手をつけるきっかけになったのがデザインセンターの事業に出会えたことでした。良いタイミングでラッキーでしたね」と同氏。

同社が利用したのが、福井国体商品企画トータルサポート事業。2018年に開催される福井国体を契機として販路拡大や販売増が見込まれる商品開発に対して、デザイナー等を派遣し、商品のブラッシュアップやマーケティング

福井ものづくりキャンパス
デザインラボを利用した商品開発が始まっています！

“Store” container collection

株式会社関坂漆器

漆器の製造・卸のみならず、デザイン雑貨やアパレルを取り扱うセレクトショップ「ataW」を運営する同社の新プロジェクト“STORE”。伝統的で象徴的な、日本の漆器のお椀をベースに、そのカタチを底にして上に伸ばしたようなデザインです。伝統的なカタチを操作することで、現代のライフスタイルにも対応できるプロダクトに仕上がりました。



「STORE」の使い勝手のポイントでもある、木製の蓋の裏に付いたシリコンパッキン。ABS樹脂製の本体（お椀部分）とのフィット感を調整するために、デザインラボのレーザーカッターを利用し、試作を繰り返したことで製品として完成しました。

＜デザインラボで利用できる機械のご紹介＞

- ① 光造形機 利用料 5,000円/h
- ② 石膏3Dプリンター 利用料 1,400円/h
- ③ レーザーカッター 利用料 700円/h
- ④ UVプリンター 利用料 500円/h

ご利用は完全予約制です。
事前に電話またはメールでご連絡ください。

デザインセンターふくい
 メール：designlabo@fklab.fukui.fukui.jp
 電話：0778-21-3154



商品バリエーションの追加と
高級感のあるパッケージ

グなどを総合的に支援する事業です。デザインセンターの職員との打ち合わせの結果、県内のデザイナー三木あひ氏との協働がスタートしました。「約4カ月の取り組みの中で、5回、三木さんや山本さん（デザインセンター職員）との打ち合わせを重ねました。最初の打ち合わせで三木さんにも商品を気に入っていただけ、そこからの流れもスムーズでした。一人で考えていたのでは出てこないようなたくさんのアイデアをいただくことができました」。

初回の打ち合わせで、ブランドデザインの重要性を再確認した両者。都市部の人や外国人観光客の目からみて、また、性別を問わず魅力的に映る商品を目指し、元々の課題であったパッケージはもちろん商品ラインナップについても見直しを図ることになりました。これまでになかったショート丈やミドル丈、国体キャラクターの「はぴりゅう」をイメージした赤・青のトート

ンカラーで仕上げた子供用など、荒井氏は新シリーズの開発に汗を流しました。それと同時進行で、三木氏からは新パッケージの提案が。そのデザインのコンセプトに感心したと、パッケージのサンプルを手荒井氏はこう語ります。

「まず、越前和紙のみみ紙の質感で高級感が格段にアップしましたね。包み方にも工夫のある提案をいただきました。のりやホチキスを使わず、折り紙のような包まれ方になっており、開けていく行程にワクワク感があり、日本的な贈り物の要素がプラスされています」と、その出来に満足している様子です。今回、新たにデザインされたブランドロゴはモノトーンでシンプルに表現され、それに付随する糸の束の存在感を引き立て、和紙の糸で編まれているという最大のアピールポイントを視覚的に表現しています。

「今回の取り組みでデザイナーさんの引き出しの多さには何度も驚かされました。自身のブラッシュアップとパッ